

(7) レポート

- ① レポートの提出期限
 - ・科目担当教員が指示した日時までに提出してください。
 - ・提出期限までに提出しなかった場合、単位を修得できないことがあります。
- ② レポートの提出方法
 - ・授業科目により異なります。科目担当教員が定めた方法で、定められた場所に提出してください。
 - ・メールの添付ファイルで送信するよう指示される場合もあります。メール提出の場合は、送受信トラブルで科目担当教員に届かないこともあります。送信履歴がない場合、レポート提出が認められないことがありますので、必ず送信履歴を残しておくとともに、添付したファイルを手元に保存しておいてください。
- ③ レポートの体裁・書式
 - ・学務課（教務）または呉羽事務室備え付けの表紙に必要事項を記入して提出してください。ただし、授業科目やレポートの内容によっては、備え付け以外の表紙を付けるよう科目担当教員から指示される場合もあります。
 - ・必ずホチキス等で綴じてから提出してください。使用する用紙のサイズ、手書き・Word 等データの別、縦書き・横書きの別については、科目担当教員の指示に従ってください。

6 成績評価**(1) 成績評価**

授業科目の成績評価は、上位より S (100～90 点)、A (89～80 点)、B (79～70 点)、C (69～60 点)、F (59 点以下) の 5 段階をもって表示し、S、A、B、C を合格、F、欠を不合格とします。単位認定科目は P とします。

(2) 成績評価基準

各学部共通 成績評価表

区 分	評 価 基 準	評 価	Grade Point
合 格 (単位修得)	科目の到達目標を十分に達成しており、授業内容について深く理解していて、特に優秀な成績と認められる。	S (100～90 点)	4.0
	科目の到達目標を達成しており、授業内容について理解していて、優秀な成績と認められる。	A (89～80 点)	3.0
	科目の到達目標を概ね達成しており、授業内容について概ね理解していて、良好な成績と認められる。	B (79～70 点)	2.0
	科目の到達目標を最低限達成しており、授業内容についてある程度理解していて、合格の最低基準を満たした成績と認められる。	C (69～60 点)	1.0
不 合 格	科目の到達目標を達成しておらず、授業内容について理解が不十分である。	F (59 点以下)	0.0
	試験欠席者 授業放棄者 受験無資格者	欠	0.0
認 定	単 位 認 定 ※ 単位認定科目は、GPA の算出対象ではありません。	P	—

(3) 成績の発表時期

前期履修科目の成績は、8月下旬、後期履修科目の成績は、2月下旬に CampusPlan 学生カルテシステムで発表します。

(4) 成績の確認方法

本学は、CampusPlan 学生カルテシステムを利用し、成績を発表します。学生は、個人の責任において成績を確認することになります。成績表は、GPA や卒業に必要な単位数などが表示されており、修得科目や取得単位数を自分自身で確認するための重要なものです。また、各学期の履修登録の際に参考となる

I. 修学

資料です。必ず確認してください。

(5) 成績表の留意点

発表される成績は、履修登録した科目のみが表示されており、成績評価に基づいて「S・A・B・C・F・欠・P」が表示されています。通年科目の場合、前期の成績発表時には、履修中を意味する「履」が表示されています。

(6) 追試験・再試験

成績によって追試験や再試験の対象となる科目があった場合は、5成績評価方法の(4)追試験、(5)再試験を参照してください。

(7) 成績の疑義の申出および不服申立て

成績評価に疑義および不服がある場合は、「富山国際大学現代社会学部授業科目の履修に関する規程」または「富山国際大学子ども育成学部授業科目の履修に関する規程」により申出することが可能です。当該科目を受講した翌学期の履修登録期間中に学務課（教務）または呉羽事務室まで申し出てください。詳細は規程を確認してください。

7 単位修得

(1) 単位修得

履修科目において、成績評価が合格（S・A・B・C）、認定（P）となった場合、単位修得となります。

(2) 単位計算方法

「1単位=45時間の学修」を標準とします。45時間の学修には、授業時間だけでなく、授業外学修時間（予習・復習・課題提出・各種活動等）を含みます。

授業時間は、45分の授業をもって1時間の学修時間とみなします。1コマの授業時間は90分で、2時間の学修時間を意味します。

単位計算方法

授業種別	授業時間	授業外学修時間	認定単位数
講義・演習	15時間	30時間	1単位
実習・実技	30～45時間	0～15時間	1単位

現代社会学部では、卒業論文の作成に必要な研究調査時間を4単位とみなしています。単位認定は「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」と併せて行います。

I. 修学

(3) 他学部・他大学での単位修得について

他学部・他大学の授業科目を履修することが可能です。単位認定区分については、学部によって異なります。

他学部・他大学の授業科目を履修した際の単位認定区分について

種別	現代社会学部 学生	子ども育成学部 学生
	認定される区分	認定される区分
富山国際大学の「他学部」の科目を履修	教養科目（基盤） ※12単位まで卒業単位として認定可能	・自由科目 ・読み替えを承認した場合は卒業単位に算入可
「富山短期大学」の科目を履修	教養科目（基盤） ※12単位まで卒業単位として認定可能	・自由科目 ・読み替えを承認した場合は卒業単位に算入可
大学コンソーシアム富山「単位互換科目」を履修 （本学の教育課程表に記載のない科目）※ （前期オリエンテーションにて配布されるチラシに記載） （大学コンソーシアム富山 HP でも確認可能）	教養科目（基盤） ※12単位まで卒業単位として認定可能	・自由科目 ・読み替えを承認した場合は卒業単位に算入可
大学コンソーシアム富山「単位互換科目」に掲載されている本学の科目を履修	「とやま地域学」→教養科目 「教養特別講座」→教養科目	「とやま地域学」→教養科目 「教養特別講座」→自由科目。読み替えを承認した場合は卒業単位に算入可。
「国内留学」をした	科目ごとに判断する。 本学の科目として認定または一括認定。	
（一社）学修評価協議会「連携開設科目」を履修 （学生便覧 P106 に記載の科目）	・富山国際大学の開講科目として認定 （2026年度の開講科目は教養科目として認定）	・富山国際大学の開講科目として認定 （2026年度の開講科目は教養科目として認定）

※本学の教育課程表に記載の科目は、本学の教育課程表の区分に従って認定。

8 GPA (Grade Point Average)

(1) GPA制度

本学では、学生の学修意欲を高めることおよび学生に対する学修指導・支援や学修成果の可視化等に活用することを目的としGPA (Grade point Average) 制度を導入しています。

成績通知表に記載されていますので、自身の履修状況を客観的に把握し、履修計画を立てる際等に活用してください。

(2) GPAの算出方法

成績評価基準にある評価に対する Grade Point (GP) の平均により算出します。

不合格科目（評価「F」「欠」）は、GPA算出科目に含まず。

単位認定科目（評価「P」）は、GPA算出科目から除外します。

【GPAの算出方法】

$$\frac{S \text{ の修得単位数} \times 4.0 + A \text{ の修得単位数} \times 3.0 + B \text{ の修得単位数} \times 2.0 + C \text{ の修得単位数} \times 1.0}{\text{単位認定科目を除いた総履修登録単位数（「F・欠」の単位数を含む。）}}$$

(3) GPAの具体的活用方法

① ゼミ担当教員からの学修指導

GPAの満点は4.0です。4.0に近い数値であれば、学修意欲が高く優秀であると言えます。GPAが極めて低い場合には、ゼミ担当教員や担当部署等から様々な指導（アドバイス）があります。

② 学生表彰、奨学金対象者などの選考・支援

本学には、学生表彰、奨学金・奨励者制度があります。選考は、学業態度と成績評価（GPA含む）を勘案して行います。したがって、奨学金を給付されていた学生であっても、学業態度・成績評価により制度要件を満たさない学生は、奨学金の給付が停止される場合があります。

③ 「実習」履修に係る指導

学部によっては、GPAが一定の水準に達しない場合は、資格免許にかかわる学外実習の履修が許可されないことがありますので、注意してください。

④ 退学勧告

学習・学生生活に対する助言指導にもかかわらず学修意欲を示さない学生に対しては、進路変更の考察も促す目的で、退学の勧告を行うことがあります。

成績評価が決定した時点で、当該学期のGPAが1.0未満（成績不振）の場合は、担当教員による学生本人との面談（学修指導）が行われます。

a. 学期GPA 1.0 未満が1回目の場合

ゼミ担当教員の面接・指導（父母等との面談を実施する場合あり）。

b. 学期GPA 1.0 未満が2回目の場合

ゼミ担当教員の面接・指導および父母等との面談を実施。

c. 学期GPA 1.0 未満が3回目の場合

学部長により退学勧告。

心身の健康上の理由から、やむを得ずGPAの数値基準を満たすことができなかった場合には、面談（学修指導）は行われますが、上記の回数から除外します。

退学勧告は、「退学」を強要・強制するものではありません。大学における学生生活とは別の選択肢をとるかどうかの判断は、学生自らの判断に委ねられます。

退学勧告後、学生自らの判断で退学し、改めて修学する意欲が生じた場合には、再入学が認められる場合があります。（学則第17条）

⑤ GPAによる履修できる上限単位数の変動

学期あたりに履修できる単位数は、各学部で定めている「履修に関する規程」で、原則として上限が22単位と定められています。ただし、履修した学期の成績評価に基づくGPA数値によって、翌学期に履修できる上限単位数が変動します。これは、成績優秀者はさらに学びを深め将来の人生に役立ててもらいたい、また、成績不振者は、学んできたことをじっくりと学び直す時間を持ってもらいたい等の目的のもとで制度化したものです。具体的には、次表のようになります。

CAP制による履修上限単位数

前学期のGPA	翌学期の履修上限単位数
3.2以上	26単位
3.2未満（標準）	22単位

(4) 留意事項

本学では、原則として「履修登録した科目」に基づきGPAを計算します。したがって、安易に履修放棄して不合格となる評価（「F」「欠」）となった場合、GPAを下げることに繋がりますので注意してください。誤って履修登録した場合でもGPA計算の対象となりますので、その場合は必ず所定の履修登録確認期間内に履修登録取り消しの手続きを行ってください。